

—私流テレワークはコレ！

出社と在宅ワークをうまく配分することで仕事がやりやすくなりました。
今後もテレワークは続けたいです！



プリンティング技術開発センター
團野 敬博 (36)

■1日のスケジュールはどう変わりましたか？

私は技術開発センターにてレーザープリンターの開発を担当しています。今、開発している技術が5年後、あるいは10年後の製品に活かされていく、そんな業務です。

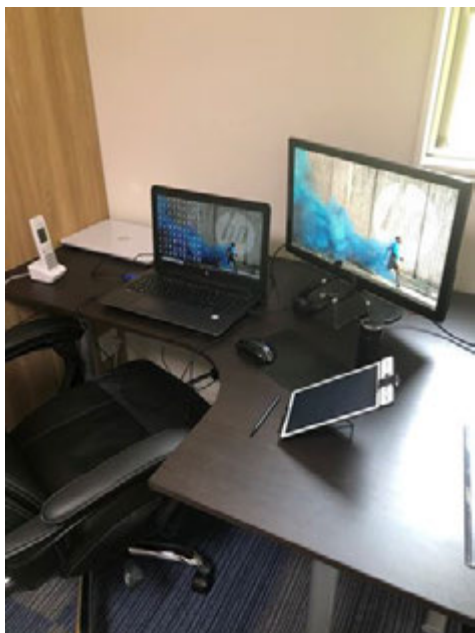
コロナ禍前の業務を簡単にいうと、朝出社してメールチェックをした後、実験計画をまとめるなどのデスクワークを行い、実験室に行きその日割り当てた作業をして、最後にもう一度メールチェックをして帰宅するという流れの毎日を送っていました。

一回目の緊急事態宣言の際に完全テレワークになりましたが、その時は実験がまったく行えなかったのがとても厳しかったですね。製品開発の仕事は仮説を立て、それを実証していくことが大切ですが、実証するための作業ができない。なので、最初のうちは論文をたくさん読み仮説を立てたり、大切な業務の一つに“特許を取る”ことも含まれるので、関連する特許を調べたりしていました。

完全テレワークが2~3か月ほど続いた後、出社人数を制限することで実験室に行けるようになったので、週3回ほど会社へ行き、残り2日はテレワークというようなルーチンに変わりました。出社できる日はデスクワークをせず、なるべく多く実験するようにしています。実験データを解析したり、それを資料に落とし込んだり、これまで毎日少しずつやっていたデスクワークは、テレワークの日にまとめて行っています。そうすることで、完全に業務を

切り分ければ、私たち開発者でもテレワークがうまく適用できることが分かりました。開発者は探究することが好きです。探究とは物事の本質を見きわめることですが、そのためには、実験と考察の両方に十分な時間が必要だと思います。テレワークによる仕事環境の変化は、それを表しているのかも知れませんね。

私たちの開発センターの行動指針の一つに『科学的に思考する、探究を楽しむ』というものがありますが、まさにテレワーク中の今、大いにこれを実行できていると思います。



画像：自宅ではいつもこの机で仕事をしています。

■会社の仲間や上司とのコミュニケーションは？

Web 会議を最低でも週 2 回はやるようにしています。コミュニケーションに関しては以前より取れていると感じています。なぜかという、私たちは実験データをもって話し合いをするのですが、会議室だとプロジェクターや大画面液晶モニターに投影し、それを見ながら進めます。しかし、実際には細かいところが見づらく、小さい数字などをチェックすることが難しい場面もありました。

Web 会議だとデータを簡単に共有できますし、目の前のディスプレイ上で確認できるので細かな点も気がつきやすい。そういう意味で、このデータの取り方をもっと詳細にできないか、ここの数値は違うのでは、といった議論が活発になるのです。

また、センター全体のミーティングなど大勢がいる場では、私は発言できないタイプでした。しかし、オンライン会議ならチャットボックスで質問できるので参加するハードルがとても下がった気がしています。

こういった様々な意味で、チームや会社のみなどテレワーク環境におけるコミュニケーションは大きく向上したと思います。

■テレワークでの健康管理は？

これにはとても気を使いました。最初の緊急事態宣言のときは外出も自粛してくれという要請だったので、自宅の庭でできることはないかと考えました。

昔からテニスをやっていたので、それを試すのが一番だろうと思い、ネット付きのトスマシンを買いました。テニスの練習にはとても良いのですが、セッティングと後片付けにとっても苦勞するので時間のあるときでないとできず、今はあまり使ってません(笑)。

もうひとつ買ったのが、ストローク練習用の器具で、棒の先にボールがついているとてもシンプルなものです。こちらは準備も簡単ですし、打感がきちんとラケットから伝わるので打っていてとても気持ちがいい。10~15分ぐらい打っていると心身ともにすっきりするのでとても気に入りました。今でもテレワーク時のちょっとした休憩に使っています。うまく気分転換できて楽しいです。

■テレワークを続けてよかったこと、困ったこと

やはり実験できない時期が本当に困りました。仮説を立てても実証できないのは本当に辛く、やはり製品開発には実験が欠かせないと実感しました。

でも、実験時間が限られたことによって、自分たちがやらなければならない実験が絞れたのも大きな収穫だったと思います。簡単にいうと、私たち自身が技術の蓄積のためにやらなければならない実験と、データは必要だけど、私たちが直接やらなくてもよい実験を整理しました。そしてデータだけが必要な実験は外部に委託することにしました。

例えば、通常扱っていない材料を使用した論文で、自分たちの開発に役立つのではないかとと思われる場合です。以前は、その実証のためにわざわざ材料を購入して自分たちで実験を行っていました。この場合、経験がない実験のことが多いので、工数もかかり実験結果の信頼性も低くなります。一方で、こうした実験を得意とする委託先に外注することで、こちらの工数はなくなり、かつ信頼性の高いデータが取れます。

うまく実験をアウトソーシングすることで、私たちの実験業務をスリム化できたことは、今回のコロナ禍で得られた最大のメリットかも知れませんね。

■ アフターコロナへ向けて。会社への要望

今回のコロナ禍によって開発者のテレワーク活用が一気に進んだ気がします。自分としても通勤時間の削減によって業務効率がよくなることも多く、今後もテレワークは続けていきたいです。会社としてもぜひこの制度は残して欲しいですね。

また、開発者は最新の情報や技術を収集するために、頻繁に展示会などに参加しますが、出張制限の今は、国内外の展示会などに行くことができません。現状では厳しいかも知れませんが、いくつかの国や地域ではそうしたイベントが始まりだしているの、なるべく早い段階で参加できるようになるとうれしいです。

【テレワークで買ってよかった逸品紹介】



一番満足しているのはワークチェアですね。デスクワークを丸一日やるというのは初めてでしたが、結構足腰に負担がきました。フットレスト付きで足が延ばせるので楽な姿勢で仕事ができます。座面も広いので座り心地も満点。本革なので蒸れにくいのも良い点です。また、テレワーク中でも実験中でも使える Bluetooth ヘッドセットを使用しています。実験をやりながらミーティングに参加することもあります、とても使い心地がよいです。